

登戸学寮ニュース

公益財団法人 登戸学寮
〒214-0032
神奈川県川崎市
多摩区柞形 6-6-1
発行人 福島 穆

おおしまともお 大島智夫氏(元理事長)訪問記

理事長 福島 穆



六〇周年記念募金の現状につきましても、別途ご報告の通りですが、この中には大島智夫元理事長発行の「海老名便り」読者の方々から、購読料をご寄付として頂戴した分が含まれております。多額の貴重なご支援をいただき、ここに記して感謝申し上げます。「海老名便り」読者の方々が大島智夫氏の現状をご心配くださっていますので、訪問してお話をうかがってまいりま

した。

大島智夫氏は、一九二五年生まれ。寄生虫学の専門家として名高く、横浜市立大学で教鞭を執られ、同大学名誉教授であられます。登戸学寮のご縁は、一九七六年四月に寮長として赴任されたことに始まり、一九八八年三月までの二二年間に亘って、その任を全うされました。この二二年というのは、未だ破られていない最長記録であります。一九九六年から二〇一三年までは、理事長として引き続き学寮をお支えくださり、今回、創立六〇周年記念募金の委員長も引き受けてくださいました。恵美夫人は、登戸学寮創立者、黒崎幸吉の娘さんです。

※ 目次 ※

- 大島智夫氏(元理事長)訪問記 福島 穆……………1
- 寮の行事紹介……………2
- 聖書のことば (コリントの信徒への手紙I)……………4
- 理事会・評議員会報告……………6
- 寮友会より……………8
- 私たちは同県人です
同期生消息
寮友会総会のご案内……………10
- コラム 俳句鑑賞の手引き(3) 俳人(学寮) 岸本尚毅……………10
- 感謝——六〇周年記念事業 経過報告……………10
- ご案内……………11

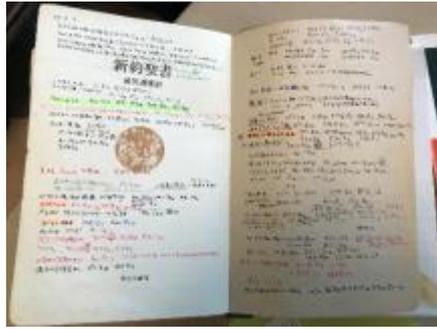
「伝道私信」海老名だより」は一九九一年一月に創刊、以来二〇一五年二月まで全二二三号を数え、多くの読者を獲得いたしました。同氏は、本年七月以来、ご自宅の近くの老人介護施設「カーサ・ボニータ」でお過ごしになっています。本年満九十二才になられ、大変にお

元氣であります。部屋は個室で、広くはありませんが新しい施設で、極めて清潔、快適にお過ごしの様子と拝見しました。朝食後、午前中は散歩、読書、手紙の整理などにお時間を充てられ、午後は徒歩で三十分ほどのところの施設におられる恵美夫人を訪ね、夕方まで共に過ごされるのがご

日課だとか。ご夫人は、例えばドイツ語の歌の出だしを口ずさんで誘ってみると、昔の記憶が蘇り共にお歌いになれるそうです。火・金曜日は午前中にリハビリがあるとのこと。食事は栄養や健康に配慮したものが提供されるため、必ずしもご自分の望み通りのものが出てくるわけではないようですが、ご子息からの差し入れがあり、それを楽しまれているとのことでした。

会談は二時間を超えました。話題はご自身の歩み、登戸学寮寮長時代の思い出など多岐にわたり、つい時間の経過も忘れる程でした。学寮での朝拝の準備のために前田護郎訳『新約聖書』を精読なさったと話され、細かい書き込みの入った同書を見せて下さったのが印象的でした。後でお疲れが出ないことを願いつつ退去いたしました。別れ

際に、「一日が終わって自分の部屋に戻り、娘の富士子の写真を見るとちよっと寂しくなる」とつぶやかれました。なお、ご訪問やお手紙など大変に嬉しいとのことでした。皆様によりよくお伝え願いますとのことであります。



寮の行事紹介

◆入寮式

四月九日(日)、今年も新入寮生を迎えて入寮式が執り行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが、女子六名、男子四名、計一〇名の新入寮生が、現在興味のあることや今後の抱負などを生き生きと語ってくれました。理事長からはR・W・エマーソンの「Hitch your wagon to a star」という言葉が紹介され、高みを



目指すだけではなく、そもそも何を目標とするかにも思いを巡らせて欲しいとの祝辞が贈られました。式典の後は来賓の方々や在寮生を交えて、和やかな歓談のひと時をもちました。



◆防災訓練

五月一四日(日)、三名の消防職員の方々が寮に来てくださり、消防訓練を行いました。出番がないのが一番ですが、いざという時のために通報の仕方、消火器の使い方もきち

んと学びました。併せて非常持出袋の中身の点検も行い、防災意識を高めました。



◆黒崎幸吉記念

キリスト教講演会

六月四日(日)午後二時より、今井館講堂にて「黒崎幸吉記念キリスト教講演会」を開催しました。今回の講演会のテーマは二〇一六年度後半に「寮生活動支援制度」を利用して行われた、ドイツ研修旅行の成果報告です。引率者である山吉智久氏(前寮長、



現北星学園大学准教授)による「ルターから五〇〇年後の世界―二〇一六年ドイツ研修旅行について―」に引き続き、研修旅行に参加した三名の学寮生が登壇。それぞれ「食文化を通じて見るドイツ」、「第二次大戦期ドイツの影と光」、「数学者の遺したもの―ガウスの生きた国から―」というテーマで講演しました。三人とも自らが選び出した課題を持って、生まれ育った国を飛び出し、異国の地で遭遇した事柄について自分の頭で考え、さらにそれを自らの言葉で周



囲の人に伝えて共有する、という難事業に真摯に取り組んでいました。会場にはしばしば笑い声が溢れ、三〇名を超える来場者の方々も寮生の発表に聴き入っていました。講演会の後、来場者の方々に感想をお寄せ頂きました。黒崎幸吉の精神が若い学生に引き継がれていることに心を動かされたというお声や、目標を持って活動をする寮生の姿に頼もしさを感じたという感想、また、キリスト教に関する話をもう少し聞きたかった。



たというご要望など、貴重なご意見をたくさん頂戴いたしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。なお、本講演会の内容につきましては、『方舟』五八号に掲載を予定しています。

◆多摩川いかだレース
七月一六日(日)、第二七回多摩川いかだレースに寮生有志四名が「登戸ユトリーズ」として参加しました。学寮生の出場は六年連続六回目。いかにだにも年季が入ってきまし



連日の猛暑で水位はかなり低く、ある時は漕ぎ、またある時は歩いていかだを押し、三三分二三秒で無事にゴール。レースを終えて帰寮した後には、健闘を称えて寮の中庭



でバーベキュー大会が開催されました。
(寮長 山吉裕子)

聖書のハンズが

『コリントの信徒への手紙』

キリスト教の歴史をパウロと

いう人物を抜きにして語るこ

とはおそらく不可能でしょう。

その影響力の大きさは、『新約

聖書』に収録されている全二

七の文書中、およそ半分にあ

たる一三の文書がパウロによ

て書かれたとされる手紙であ

り(実際にパウロの手に帰すこ

ができるのはその内の約半分)、

さらにイエス死後の弟子たちの

活動を記した『使徒言行録』全

二八章の内、一三章以下がパ

ウロの伝道旅行に割かれている

ことからもうかがえます。

パウロ(ヘブライ名サウロ)は

キリキア州のタルソスという町

(現在トルコ領)の出身だと言わ

れています(使二二39、二二

3)。彼は生前のイエスとは全

く面識がなく、ユダヤ教の一

派であるファリサイ派の熱心

な信徒として(フィリ三5)キ

リスト教徒を迫害してしまし

た。しかし復活のキリストが彼

に「現れた」(一コリ一五18)こ



『聖パウロの改宗』

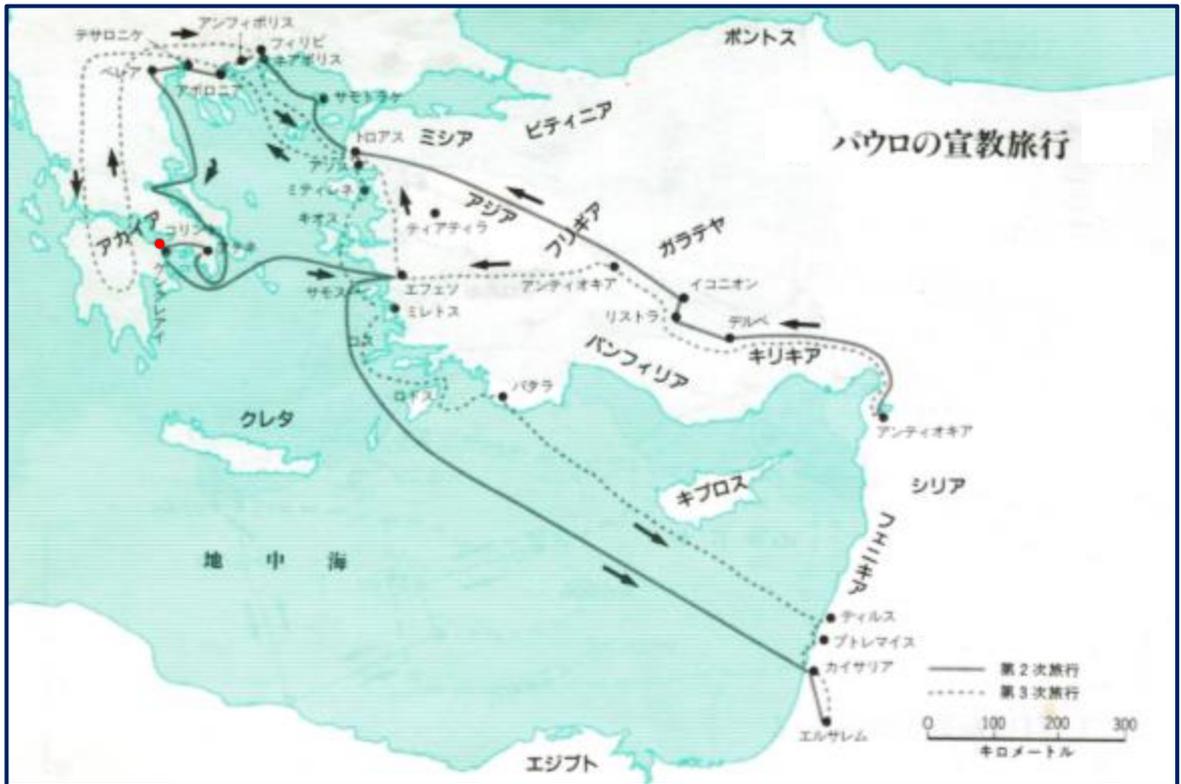
カラヴァッジョ (Caravaggio)

1600年

オデスカルキ・コレクション (ローマ) 蔵

とにより、かつて自らが迫害していたキリスト教の伝道にその後の人生を捧げることになりました。このいわゆる「回心」の場面を『使徒言行録』九章は非常にドラマチックに描いています。が、実際に何が起こったのかは定かではありません。年齢は三〇代の半ば頃であったようです。ともあれ、パウロは初めはアンテオキア教会の一員として、後には独立伝道者として、現在のトルコ半島からギリシアにかけての地域を中心に歩き回りました。

コリント教会はパウロが初めて独自に行った「第二回伝道旅行」において設立された教会です(使一八一以下)。パウロは約一年半その地に滞在し(使一八11)、多くの実りを得ました。しかしパウロが同地を去って数年後、教会は内部分裂状態に陥ってしまいます。この知らせを聞いたパウロは、当時滞在していたエフェソスから(一コ



リ一六八)コリント教会の人々に宛てて手紙をしたためます。これが『コリントの信徒への手紙I』です。

わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争い事がある。とクロエの家の人たちから知らされました。わたしがこのことを言うのは、あなたがたはめいめいが「わたしはパウロにつく」、「わたしはアポロに」、「わたしはケファに」、「わたしはキリストに」と言っているからで



↑コリント海峡

皇帝ネロが着手したものの、完成には程遠く、結局開通したのは一八九三年のこと

す。(一11-12)

パウロの生きた時代、紀元後一世紀のキリスト教はまさに揺籃期にあり、決して一枚岩というわけではありませんでした。パウロ以外にも多くの伝道者が活動しており、彼と意見を異にする人たちも大勢いました。特にコリントはコリント湾に面したレカイオン港とサロニコス湾に面したケンクレアイ港とを結ぶ貿易の要衝であり、様々な物や人が行き交う多民族・多宗教の都市でした。コリントにおいて新参者のパウロが受け入れられ、成功を収めることができた背景にはこのような都市の自由な気風があります。それは他の伝道者にとつても有利に働いたであろうことは想像に難くありません。

さて、いつの時代も派閥が生じた時に問題となるのは、いったいどの派が最も優れているのか、ということなのです。コリント

か、ということなのです。コリント教会の人々は、「知恵」を判断基準とし、自らが信奉する指導者がいかに知恵に秀でているかを互いに争いあっています。このことは『コリントの信徒への手紙I』の一章から三章という短い中に「知恵(sophia)」という語が一六回、「知恵のある」、「知恵者(sophos)」という語が一〇回も使われていることからうかがえます。パウロは人間の「知恵」が神の前では何の価値もないこと、そしてそもそもコリント教会の人々を選び出されたのは、優れていたからではないことを指摘します。

兄弟たちよ、あなたたちが召し出された様を見てください。肉による知者は多くはおらず、権力のある者も、生まれの良い者も多くはありませんでした。……むしろ神は知者をおぼろげにするためにこの世の愚かさを選びました。…

…それは全ての肉が神の前で誇ることがないためです。(一26-29)

人間が活動する以上、派閥が生まれるのは仕方のないことなのかもしれません。物事がうまく行っていればなおのこと、その成果をもたらしたの自分たちのリーダーと自分たちなのだ誇りたくもなるでしょう。しかし本来人間にできるのは、目標に向かって自らの役割を果たすことだけなのです。そこには役割の違いがあつても優劣は存在しません。

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させたのは神です。(一三六)



『四人の使徒』(部分)
(右がパウロ)
デューラー (Dürer)
1526年
アルテ・ピナコテーク
(ミュンヘン) 蔵

人間の働きが実を結ぶかどうかは神の手に委ねられています。それは、あることの成果が人間の力によつてもたらされるのだという勘違いを諷めるとともに、人間は自らの役割を果たすことに邁進すればよく、それがどのように育つてゆくかは心配しなくてもよいという慰めでもあります。パウロの言葉は、時に自分以外の全ての人を蹴落としてでもとにかく早く、最大の「成果」を求められることが多い今日において、その新鮮さを全く失っていないと言えるのではないのでしょうか。

(山吉裕子)

理事会・評議員会報告

1. 理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の定例理事会は二〇一七年五月二七日(土)に、定時評議員会は六月一七日(土)に、臨時理事会は同日に登戸学寮で開催されました。以下にその議事内容について報告します。

2. 二〇一六年度決算

五月の定例理事会及び六月の定時評議員会で、別表(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表)の通り昨年度決算が承認されました。事業活動収入は、約二九二四万円で、寄付金が増加した半面、寮生数が当期二名、下半期さらに三名)したことにより予算対比で約一

五二万円減少しました。他方事業活動支出は、約二〇二七

万円で、国際交流活動等寮生活動支援、各種備品の購入等所要の経費支出を行う一方で、様々な経費における節約努力がなされたことにより、予算対比約四一四万円増となりました。その結果、事業収支差額は、予算対比二六二万円増の約八九七万円となりました。

次に投資活動支出は、毎年の建物積立取得資金三七〇万円に、男子浴室工事約二一五万円を加えた五八五万円となり(これらは、別添の貸借対照表にも計上)、上記事業収支差額八九七万円からこの投資活動支出を差し引いた当期収支差額は、約三二二万円となりました。この結果、前期繰越収支差

額約七五六万円に、この当期収支差額を加えた次期繰越収支差額は、約一〇六八万円となり、財務状況は、前年度に引き続き、健全な状態を続けています。なお、公益財団法人として求められる収支相償基準への対応としては、二七年度年度剰余

金(未解消分)と二八年度剰余金(正味財産増減計算書ベースの剰余金)を加えた額(約三三三万円)について、今年度、長期修繕関連工事費等への支出を予定しています(神奈川県にも報告)。

3. 新理事選任

理事の全員が六月の定時評議員会の終結と同時に任期満了退職することとなったので、定款に定める手続きに基づいて定時評議員会で、下記のとおり理事が選任されました(任期二年)。

収支計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 登戸学寮

事業名: 事業全体

(単位: 円)

科目	予算額 a	決算額 b	差異 b-a	H29 予算額
I 事業活動収支の部				
事業活動収入				
基本財産運用収入	5,000	7,008	2,008	5,000
基本財産受取利息収入	5,000	7,008	2,008	5,000
入寮費収入	1,350,000	1,200,000	-150,000	1,200,000
入寮費収入	1,350,000	1,200,000	-150,000	1,200,000
寮費収入	28,700,000	23,572,297	-3,127,703	23,850,000
寮費収入(室料)	22,400,000	19,379,929	-3,020,071	19,600,000
寮費収入(食事代)	3,500,000	3,397,764	-102,236	3,500,000
共益費等寮生徴収金	800,000	777,904	-22,096	750,000
短期宿泊料収入	0	16,700	16,700	0
寄付金収入	2,500,000	4,378,000	1,878,000	500,000
雑収入	205,000	77,086	-127,914	55,000
事業活動収入計	30,780,000	29,235,391	-1,524,609	25,610,000
事業活動支出				
人件費	9,000,000	7,867,470	-1,132,530	9,000,000
賄材料費	3,100,000	2,439,079	-660,921	3,100,000
会議費、役員会雑費	510,000	477,474	-32,526	510,000
寮生活動支援費	550,000	713,173	163,173	550,000
旅費交通費・車両費	220,000	133,601	-86,399	180,000
通信運搬費	600,000	1,194,950	594,950	600,000
消耗品費・事務用品費	400,000	286,980	-113,020	400,000
修繕費・什器備品費	1,500,000	1,093,241	-406,759	1,200,000
方冊刊行・印刷費	300,000	388,910	88,910	390,000
講演会等諸雑費	120,000	64,897	-55,103	120,000
水道光熱費	3,250,000	2,296,399	-953,601	3,250,000
広報費	1,000,000	501,206	-498,794	800,000
図書新聞費	140,000	86,520	-53,480	140,000
支払報酬料	900,000	518,400	-381,600	800,000
災害保険料・防災費	700,000	654,571	-45,429	700,000
租税公課	350,000	344,750	-5,250	350,000
支払手数料・その他	1,770,000	1,204,017	-565,983	1,270,000
事業活動支出計	24,410,000	20,265,638	-4,144,362	23,360,000
事業活動収支差額	6,350,000	8,969,753	2,619,753	2,250,000
II 投資活動収支の部				
投資活動収入				
投資活動収入	0	0	0	0
投資活動支出				
特定資産取得支出	3,700,000	3,700,000	0	3,700,000
建物再建特定積立資産取得支出	3,700,000	3,700,000	0	3,700,000
固定資産取得支出	400,000	2,146,000	1,746,000	1,200,000
建物・什器備品取得支出	400,000	2,146,000	1,746,000	1,200,000
投資活動収支差額	-4,100,000	-5,846,000	-1,746,000	-4,900,000
当期収支差額	2,250,000	3,123,753	873,753	-2,650,000
前期繰越収支差額	7,556,767	7,556,767	0	10,680,520
次期繰越収支差額	9,806,767	10,680,520	873,753	8,030,520

貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日現在
公益財団法人 登戸学寮

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	13,834,938	5,901,843	7,933,095
未収金	149,909	522,586	-372,677
仮払金	0	0	0
前払金	769,255	126,942	642,313
預け金	0	4,000,000	-4,000,000
流動資産合計	14,754,102	10,551,371	4,202,731
固定資産			
基本財産			
土地	592,500	592,500	0
建物	136,410,780	140,215,658	-3,804,878
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	147,003,280	150,808,158	-3,804,878
特定資産			
建物再建特定積立資産	66,348,012	62,648,012	3,700,000
特定資産合計	66,348,012	62,648,012	3,700,000
その他固定資産合計	4,017,565	4,739,085	-721,520
固定資産合計	217,368,857	218,195,255	-826,398
資産合計	232,122,959	228,746,626	3,376,333
II 負債の部			
流動負債			
仮受金	0	0	0
前受金	2,186,388	1,298,036	888,352
未払金	1,287,359	1,016,552	270,807
預り金	59,835	20,016	39,819
入寮時預り金	540,000	660,000	-120,000
流動負債合計	4,073,582	2,994,604	1,078,978
固定負債合計	0	0	0
負債合計	4,073,582	2,994,604	1,078,978
III 正味財産の部			
一般正味財産	228,049,377	225,752,022	2,297,355
(うち基本財産への充当額)	147,003,280	150,808,158	-3,804,878
(うち特定資産への充当額)	66,348,012	62,648,012	3,700,000
正味財産合計	228,049,377	225,752,022	2,297,355
負債及び正味財産合計	232,122,959	228,746,626	3,376,333

正味財産増減計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 登戸学寮

H28.4.1~H29.3.31 H27.4.1~H28.3.31 (単位:円)

科目	当年度決算	前年度決算	増減
I 一般正味財産の部			
経常収益			
基本財産運用益	7,008	3,338	3,670
受取入寮費	1,200,000	2,250,000	-1,050,000
受取寮費	23,572,297	27,752,319	-4,180,022
受取寄付金	4,379,000	2,823,000	1,556,000
雑収益	77,086	247,090	-170,004
経常収益計	29,235,391	33,075,747	-3,840,356
経常費用			
事業費	26,938,036	29,499,289	-2,561,253
人件費	7,867,470	9,559,319	-1,691,849
備材料費	2,439,079	2,352,698	86,381
会議費・役員会雑費	477,474	329,597	147,877
寮生福利厚生費・活動支援費	713,173	388,924	324,249
旅費交通費・車両費	133,601	352,290	-218,689
通信運搬費	1,194,950	656,595	538,355
減価償却費	6,672,398	6,799,388	-126,990
消耗品費(厨房含)・事務用品費	286,980	407,914	-120,934
修繕費・什器備品費	1,093,241	978,133	115,108
方舟刊行費・印刷製本費	388,910	202,165	186,745
講演会諸雑費	64,897	161,730	-96,833
水道光熱費	2,296,399	2,847,859	-551,460
広報費	501,206	656,876	-155,670
図書新聞費	86,520	46,145	40,375
支払報酬料	518,400	897,154	-378,754
災害保険料・防災費	654,571	1,799,731	-1,145,160
租税公課	344,750	350,260	-5,510
支払手数料・寄付金・その他	1,204,017	712,511	491,506
経常費用計	26,938,036	29,499,289	-2,561,253
当期経常増減額	2,297,355	3,576,458	-1,279,103
特別寄付金	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,297,355	3,576,458	-1,279,103
一般正味財産期首残高	225,752,022	222,175,564	3,576,458
一般正味財産期末残高	228,049,377	225,752,022	2,297,355
II 正味財産期末残高	228,049,377	225,752,022	2,297,355



牛嶋 仁(重任)
大竹 英雄(重任)
織田 千尋(重任)
榎田 俊明(新任)
小島 拓人(重任)
小西 孝蔵(重任)
鷺見八重子(重任)
副島 正人(重任)
野田 一三(新任)
福島 穆(重任)

**4. 理事長(代表理事)一名、
常務理事(執行理事)二
名選任**

新理事選任に伴い、定款の定める手続きに基づいて臨時理事会を開催し下記のとおり選任されました。

理事長 福島 穆
常務理事 小島 拓人
副島 正人

5. 特記事項

(1)六〇周年記念事業の募金状況
二〇一七年四月から六〇周

年記念事業を開始し、登戸学寮ニュース第二号を同封して六〇周年の寄附依頼を約二千名の方々(登戸学寮関係者約千名、今井館関係者約千名)に郵送し、五月の理事会時点で寄附金は一四四件、約六〇〇万円がありました(その後七月末時点では二二三件、九一八六八〇〇円(含一般寄附)。皆様方のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

(2)六〇周年記念事業の補修工事

男子寮の耐震化対応は設計変更により約三〇〇万円で見積可能なこと、その他の補修工事の概算見積は現時点では業者によって金額の差が大きく今後工事内容を精査して業者選定を絞り込んでゆくことが報告されました。

(理事 小島拓人・小西孝蔵)

寮友会より

登戸学寮卒業生の皆さんにおかれましては、寮友会活動に変わらぬご支援ご協力をいただき、本紙をお借りして厚く感謝を申し上げます。

振り返ってみますと私が当会の会長に就任いたしましたのは、二〇一三年十一月開催の寮友会定時総会でのことでしたので、もうしばらくしたら会長就任四年を迎えることとなります。

どんな困難な仕事でも、「引き受けた以上は全力を尽くす」というのは私の信条ですので、選任を受けて以降は未知の世界を切り開くつもりで会長職に取り組みことになりました。

ところが現実には大きな問題が浮上してきました。それは、私の自宅(千葉県柏市)から登戸学寮に行くためには千葉県↓埼玉県↓東京都↓神奈川県

というように四つの県をまたがることになり、片道二時間以上かかるという点です。これだけの距離があると学寮に行くのもおつこうになり、コピー機等の学寮が所持しているオフィス機能を利用することが難しくなることがわかりました。

寮友会にとって欠かせない会員諸氏とのコミュニケーション方式としては、会員の自宅宛てに文書を郵送する方式、自宅宛てに固定電話で連絡する方式、パソコン(またはスマートフォン)によるメール方式の三つのやり方が考えられますが、電話方式は手間がかかるため取り止め、郵送とパソコンの併用方式を採用しました。

ところが就任時に引き継いだ会員名簿には、メールアドレスの記載者が少なく、就任挨拶ハガ

キを郵送するなどして、アドレスの収集に努め、今日では数多くの卒業生のアドレスが登録されています。

私が会長に就いて以降に取り組んだ仕事の一つは『寮友会ニュース』を発行することでした。その一号である『二〇一四年冬号』は、A4サイズ片面白黒印刷三枚の構成でした。

実はこの印刷は自宅の家庭用プリンターで行いましたが、あまりの枚数の多さにトナーの消耗が激しく、結果として高い印刷代金になってしまいました。

その後、春夏秋冬と年四回発行を重ねるうちに、印刷はインターネット印刷サイトのラクスルに発注した方が安くてきれいに仕上がる事が判り、四号から切り替えました。

そして公益財団法人登戸学寮として長年の課題であった機関紙『登戸学寮ニュース』が創刊されることになりましたので、『寮友会ニュース』は役目を果た

して十号をもって廃刊した次第です。

幸いなことに『寮友会ニュース』創刊号から掲載を始めた、「同

■ 私たちは同県人です ■

今回は大阪府在住者の卒業生の方をお届けします。現住所の上の数字は入寮年次です。

✿大阪府(十一名)

- ◎佐々木栄一さん
一九五八年、豊中市
- ◎前川康夫さん
一九六〇年、箕面市
- ◎斉藤博彦さん
一九六七年、枚方市
- ◎高田和典さん
一九七一年、吹田市
- ◎浅尾彰人さん
一九七四年、堺市

期生消息コーナー」と「私たちは同県人コーナー」は、『登戸学寮ニュース』へと引き継がれています。

- ◎石井健さん
一九八七年、吹田市
- ◎大泉善規さん
一九八七年、大阪市西淀川区
- ◎澤田伸彦さん
一九八九年、和泉市
- ◎藤田英之さん
一九九三年、豊中市
- ◎松本久典さん
一九九六年、豊中市
- ◎山本卓司さん
二〇一一年、豊中市

同期生消息

(一九七〇年入寮)

本号は、登戸学寮の十三期生の方々の消息をお伝えします。

●永井芳郎さん

佐賀県多久市在住

●清水亨さん

埼玉県川口市在住

●廣田勝一さん

埼玉県浦和市在住

●矢野精二さん

大分県大分市在住

●相田淑孝さん

山形県小国町在住

●渡辺荘吉さん

東京都府中市在住

●小西孝蔵さん

東京都文京区在住

●片山豊さん

福岡県北九州市在住

●馬場哲也氏

茨城県守谷市在住

●入寮年時寮長 村井長正先生

これらのデータは、全て寮友会名簿に基づいておりますが、必ずしも事実が正確に記されているわけではありませぬので、間違いを見つけた方は、寮友会会長にご一報をお願いします。

●一九七〇(昭和45)年の主な出来事

三月一日 世界最大の旅客機ボーイング747ジャンボジェット機の第一便(パンアメリカン航空、四九〇人乗り)が初めて羽田空港に到着。



三月一五日 大阪・千里丘陵で

日本万国博覧会開幕(大阪万博)九月一三日。



三月三十一日 赤軍派学生九人による日航機「よど号」ハイジャック事件発生。四月五日犯人らを平壌に残して羽田に帰着



八月二日 警視庁、銀座・新宿・池袋・浅草の繁華街で休日の

車輛通行を禁止する「歩行者天国」を実施

一月二五日 三島由紀夫、盾の会会員四人と陸上自衛隊東部方面総監部でクーデターを呼びかけ、会員一名と割腹自殺



●寮友会総会のご案内

毎年恒例となっている寮友会総会ですが、本年は十一月二十五日(土)十一時から、登戸学寮で開催いたしますので、会員の皆さんにご案内いたします。

昨年度は、当日の午後と同じ登戸学寮にてHCD(ホームカミングデー)イベントが実施され、大変好評でした。本年も楽しい企画が予定されていますので、ぜひ登戸学寮にお出かけください。

寮友会総会での審議事項は、

- ・一号議案 前年度事業報告
- ・二号議案 前年度決算および監査報告
- ・三号議案 新年度役員選出
- ・四号議案 新年度事業計画
- ・五号議案 新年度予算

の五つとなっています。

全ての議案に関しては、総会当日に資料を配布します。

なお、総会及びHCDの詳細については、十月中旬までには卒業生各位に再度案内文書をお届けすることを考えていますが、取り急ぎスケジュール表に予定を記入していただければ幸いです。

(寮友会会長 蟹江雅彦)

コラム 俳句鑑賞の手引き(3)

俳人(学寮OB) 岸本 尚毅

前回、俳句は短い、ということを書きました。今回は「短い」ということに焦点を絞って、「俳句より短い俳句」をご紹介したいと思います。一般に「俳句」と称されている作品は、五七五の十七音です。川柳と同じサイズです。短歌や都都逸よりは短い。

この「俳句」なるものよりも、もっと短くて「俳句」と称する作品が存在します。察しの良いかたは、次のような「俳句」をすでに思い浮かべているかもしれません。

墓のうらに廻る 尾崎放哉

ハカノ・ウラニマワル。九音です。ふつうの俳句は十七音。この「墓のうらに廻る」は、ふつうの俳句のほぼ半分のサイズです。

作者の尾崎放哉は、東京帝大を出たいわゆる「エリート社員」でしたが、酒で身を持ち崩し、大正十五年に四十一歳で病死。小豆島にある小さな庵で、病気でぼろぼろの体となって、しかし近所の親切な主婦に看取られて亡くなりました。

鉄鉢の中も霰 種田山頭火

テツパツノ・ナカヘモ・アラレ。十二音です。この作品も十七音より短い。この種の「自由律俳句」の作者として特に著名なのは、さきほどの放哉と、この山頭火です。学校の教科書にもよく取り上げられています。山頭火も、放哉と同様、ハチャメチャな人生を送ったことで世の中の興味を惹き、「山頭火ブーム」なる現象を引き起こしました。

春風の重い扉だ 住宅顕信

ハルカゼノ・オモイ・トビラダ。これも十二音です。十七音に書こうとすれば「春風の重き扉でありにけり」と書くことも出来ますが、そうはしなかった。

住宅顕信は昭和三十六年生まれ。私と同じ年ですが、昭和六十二年に白血病で亡くなりました。享年二十五歳。この人もユニークな人生を送った人です。住宅顕信の生涯と「さらに短い自由律作品」については、次回にご紹介したいと思います(続く)。

※※※※※※※※※※※※※※※※

感謝——登戸学寮創立六〇周年記念事業

経過報告

本年四月からスタートしました「登戸学寮創立六〇周年記念事業」に際しての募金ですが、既に多くの方々から暖かいご支援を賜り、お寄せいただいたご寄付は、八月末現在で、約八百四十万円に達しております。スタート以来、半年にも満たない期間にかかる大金を賜りましたこと、皆様方の学寮に対する関心と期待の大なることを思い、厚く感謝を申し上げます。

ご寄付下さいました方々の内訳は、個人で延べ二二〇名、集会など三団体に達しております。卒業生の寄付は約二〇%であります。また「海老名便り」の読者の方々からは合わせて四十万円のご寄付を頂いておりますこと、感謝を

以って報告いたします。ご寄付下さった方々の名簿を何度も拝見しまして、皆様方が若い世代の聖書の学びについて大きな思いを寄せて下さっていることをひしひしと感じております。

お陰さまで学寮は職員の皆様のご協力もあり、良好なうちに毎日の生活が送られています。開寮以来の朝拜では寮生が自主的に当番を決めて、ウィークデイは七時より聖書朗読、短時間の意見交換、祈祷をもつて一日が始まります。日曜日は寮長による聖書講義とその後、内容について討議を行っております。

七月には近年恒例となつている狛江市主催「いかだレース」に出場しました。残念な

がら結果は六五位。しかし、レース後のバーベキューを含め、寮生間の親密さは更に向上をしました。

六〇周年記念事業に伴う募金はまだスタートしたばかりですが、今後は従来からご寄付を頂いている住友関係の会社、卒業生への更なる呼びかけなど、行ってまいる所存です。どうかこのニュースの読者の皆さんに於かれましても、更なるご協力をお願いいたします。

(福島 穆)

ご案内

●ホームカミングデー開催
十一月二十五日(土)、一五〜一七時、登戸学寮にてホームカミングデーを開催いたします。ぜひご参加ください。

(HCD実行委員会)

入寮のご案内

登戸学寮では入寮をご希望される方を随時受け付けています。

入寮をご希望される方、検討されている方は、お気軽に以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお定員を満した場合には、受付を締め切らせていただきますのでご了承ください。

・電話でのご相談(11:00~20:00):044-933-0819

・メールでのご相談:noborito@gakuryo.or.jp

学寮ホームページ(アドレス、<http://gakuryo.or.jp/>)もご参考ください。

初期費用

内 訳	金 額(備 考)
入寮費	15万円 (入寮時のみ。契約更新手数料はありません)
預り金	3万円 (退寮時の清掃費・補修代。精算し余剰金がある場合は返金)

寮費

1ヶ月の費用	男子寮 A タイプ	男子寮 B タイプ	女子寮
	広さ 約7.8 畳 部屋数 6 室	広さ 5.4 畳 部屋数 18 室	広さ 6.2 畳 部屋数 15 室
住居費	58,500 円	55,500 円	60,500 円
食費(朝・夕)	13,500 円(日曜は夕食なし、祝日・閉寮期間(注1)の食事はありません)		
共益費	2,300 円(水道・ガス、および共用施設の費用)		
合 計	74,300 円	71,300 円	76,300 円
その他実費	個室の電気代実費 乾燥機の使用料=1 回につき 100 円		

(注1) 閉寮期間は年度によって異なります
閉寮期間中も居室や施設の利用は可能です